

# 水稻の収益確保に向けて

## 「斑点米カメムシ類」の

## 防除対策を徹底しましょう！

本年は暖冬で推移したことから、果樹カメムシ類が多発傾向となっています。水稻を加害する「斑点米カメムシ類」についても、今後の気象状況によって、発生・被害が多くなることが懸念されるため、適切な防除対策が必要です。



穂に群がるミナミアオカメムシ(幼虫)



被害を受けた玄米(斑点米)

### 斑点米カメムシ類とは？

- ・ 畦畔や雑草地等に生息して水稻の**出穂にあわせて水田に侵入**し、稲穂を吸汁加害するため**粳が不稔**になったり、玄米の一部が**変色**する等の「**斑点米**」が発生します。
- ・ 米の検査規格では、斑点米率が0.1%(1,000粒に1粒)を超えると「2等」、0.3%を超えると「3等」、0.7%を超えると「規格外」となっています。

#### 大型カメムシ



ミナミアオカメムシ(成虫と幼虫)



#### 小型カメムシ (カスミカメ類)



アカスジカスミカメ



アカヒゲホソドリカスミカメ



ホソハリカメムシ



クモヘリカメムシ



シラホシカメムシ



イネカメムシ

# 斑点米カメムシ類の防除対策

草刈りによる耕種的防除と薬剤散布を組み合わせ、適期防除を行いましょう。

近年、遊休農地の拡大等によりカメムシの発生量は増加傾向にあります。  
このため、**色彩選別機の処理能力を超えた斑点米の発生事例**が確認されています。

## 対策その1 草刈りにより、カメムシ類の生息密度を減らす！

- ◎ 畦畔など水田周辺の草刈りを行い、カメムシ類の発生源を減らし、生息密度を下げましょう。なお、**この作業は、水稻の出穂の7～10日前までに行いましょう。**〔出穂直前の草刈りはカメムシを水田に追い込み、被害を助長するので**厳禁**！〕
- ◎ 近くに所有する休耕地がある場合は、**耕起等を行い**雑草の発生量を抑えて、カメムシの増殖源とならないようにしましょう。

斑点米カメムシ類のうちカスミカメ類は、イネ科雑草(メシバやイヌビエなど)の穂を餌として増殖する傾向が顕著なため、畦畔や周辺雑草地の草刈りが特に有効です。なお、体長が2～5mm程度と小さく、肉眼で確認しづらいため注意します。



## 対策その2 薬剤散布により確実に防除する！

- ◎ 薬剤による防除は、必ず出穂期頃と出穂後の2回行いましょう。

**防除例** ※使用薬剤によって、施用時期は多少前後します。

【粒剤(豆粒剤)体系の場合】

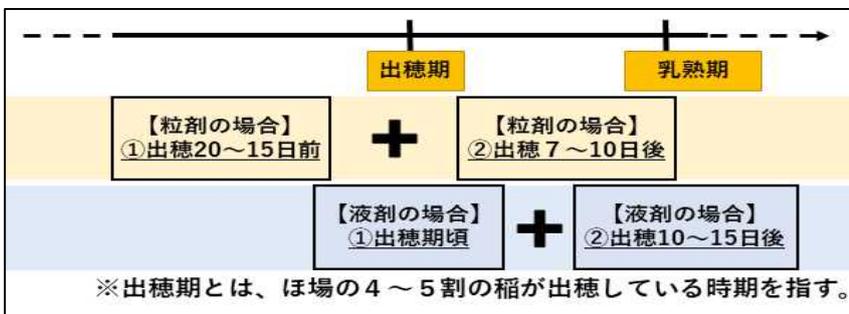
①出穂20～15日前 ②出穂7～10日後

【液剤体系の場合】

①出穂期頃 ②出穂10～15日後



出穂期頃の風景



注) 使用薬剤及び使用時期の詳細については、地域の栽培しおりを参考にしてください。  
斑点米カメムシ類のうちイネカメムシは、出穂直後の穂を加害することにより不稔被害を引き起こすため、穂揃期以降ではなく、出穂期の防除が重要です。

- ◎ 水稻のほか、**果樹をはじめとするその他の作物でも発生・被害の多発生が懸念**されます。
- ◎ **各作物においても発生動向に注意し、適期での確実な防除に努めてください。**

内容に関するお問い合わせは、最寄りの JA 香川県営農センター又は最寄りの農業改良普及センター、農業試験場病害虫防除所にご連絡ください。